

五色町
商工会

～産学連携フィールドスタディ報告会～

三田市
商工会

三田市商工会（松原正武会長）は、平成25年度産学連携事業として、兵庫県立大学大学院経営研究科のフィールドスタディ受入れを実施した。

これは、社会人学生と教授陣が会員事業所2社に2回に渡って訪問し、事業主や従業員から聞き出した課題や将来構想をもとに分析を行い、提案書にまとめるもの。

ヒアリングや報告会には商工会職員も同席し、学生が経営学の手法を駆使して

五色町商工会（砂尾治会長）は、平成25年度「産学連携事業」に取り組み、兵庫県立大学経営専門職大学院で学ぶ5名の学生から地域産業の再復興・活性化のためのまちづくり構想の提言・提案をいただくこととした。これは、地域のしがらみ等にとらわれない新鮮で多角的な視点から「まちづくり・ひとづくりの構想」の提案を得ることで、五色町洲本市五色町の地域活性化

行う調査分析を見学した。

学生はMBAの学位取得を目指す現役社会人で、フィールドスタディに対する意気込みも高く、マクロ・ミクロによる環境分析など、自身ではなかなか出来ない分析結果データを盛り込んだ実現可能性の高い提案を受け取ることができ、受入れ事業所からは「今後の事業に活かしていきたい」と大変好評だった。

また、事業所調査から浮かび上がった三田市の課題

化に繋がる、独自の地域資源を活かした産業の創出や、観光やまちづくり、ひとづくり構想の方向性の提案を期待し事業を実施した。

25年8月、12月に商工会役員や行政、地域諸団体等で構成した実行委員と学生・教諭によるヒアリングを行い、26年1月24日に現地報告会を開催。学生から3つの企画提案書が提示された。教授陣のアドバイスもあり、提案はどれも短期間ながらも経営分析や環境分析



▲積極的な意見が飛び交う報告会

や商工会に期待される役割についての提案もあり、商工会としても今後の事業に活かしていく予定。

に富んだ高いレベルのものであり、商工会では、今後の効果的な事業活動の参考にしていきたいと考えている。



▲現地報告会を終えて